

## 真宗（大谷派・東本願寺）への導き

### 《第一回》

### 親鸞聖人のご生涯（その一）



安城御影

親鸞聖人83歳の姿を描いたとされる

#### 誕生(たんじょう)・得度(とくど)

親鸞聖人は、今から約850年前(1173年・承安3年)、京都の日野の里に生まれました。

平安貴族の政治が終わりを迎えようとする時代でした。

9歳のとき、青蓮院で出家得度して仏門に入られ、その後、比叡山に登り、勉学に励まれます。

しかし、そこでは苦しみ悩みをのり越えるみちを見つけることができず、出家修行に終止符を打ち、法然上人の門をたたかれます。

29歳の時のことでした。

#### 回心(えしん)

法然上人は、どんな命も尊いことを教えてくださるのが阿弥陀仏であり、阿弥陀如来に帰命して南無阿弥陀仏と称えるならば、だれも平等に救われると説かれました。

上人によってわかりやすく、善人も悪人も、老いも若きも、男も女も、生まれや才能も問わず、南無阿弥陀仏を称えることによって成り立つ救いが明らかにされました。

煩惱を超えるために修行を重ねてきた親鸞聖人にはたいへんな驚きでした。

これ以降、念仏をよりどころとして生きていかれます。

#### 法難(ほうなん)

念仏による平等の救いを説く教えは、さまざまな価値観や束縛から多くの人々を解放しました。

しかし同時に、古くからあった仏教や権力者らとの間に摩擦を生ずることになりました。

そして親鸞聖人35歳(1207年・承元元年)の時、朝廷から念仏を止めるようにとの命令があり、法然上人のお弟子4人が、死罪となり、法然上人をふくめて8人が流罪となります。

親鸞聖人も罪人として越後(現在の新潟県上越市)に流されます。

これが法然上人との最後の別れとなり、ふたたびお会いすることはできませんでした。

次号につづく